

2月3日

航空連第43回航空政策セミナー

グランドハンドリングの持続的発展に向け ～カギにぎる人員の定着化

報告者：グラハン連事務局長
谷口 武

<本日の報告>

1. この1年で何がどう変わったか
2. 人材確保をめぐる現状～後を絶たない退職
3. 懸念される職場の安全
4. グランドハンドリングの持続的発展に向け労働条件引き上げを



1. この1年で何がどう変わったか

(1) この1年の振り返り

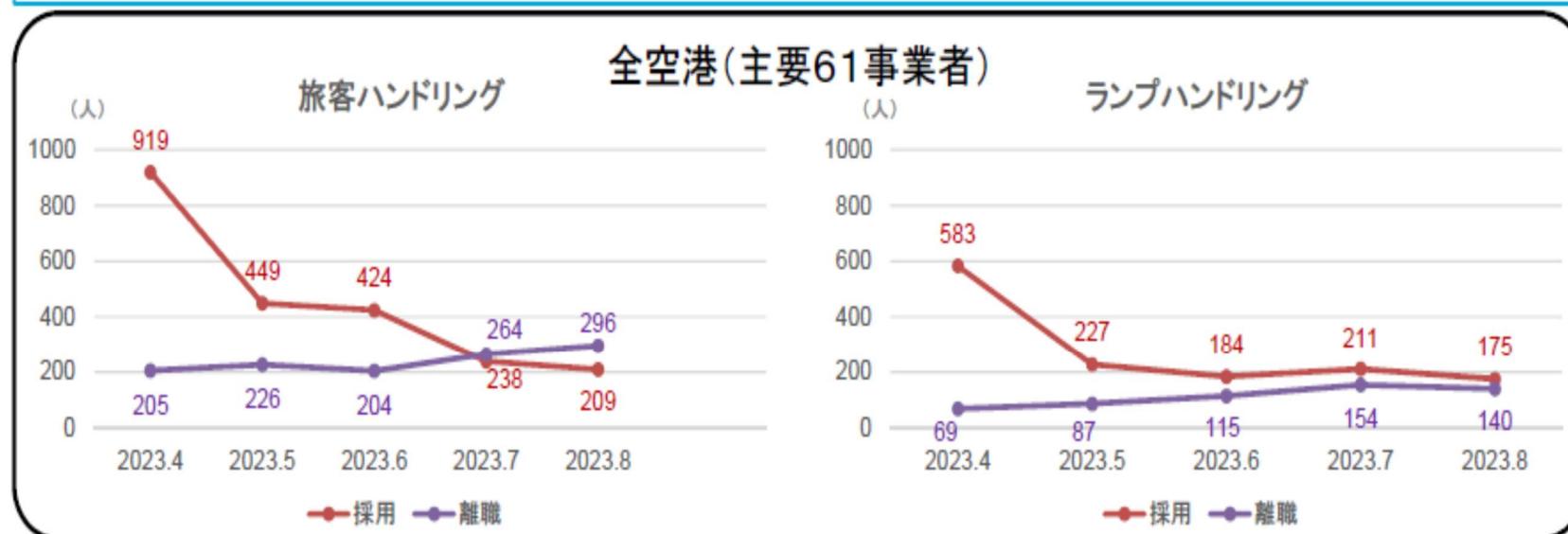
年月	航空連	国交省・企業・マスコミ
2022年 12月	<ul style="list-style-type: none"> 国交省に航空旅客の急増に対応するためのグラハン体制強化の申し入れ。①人員確保、②人員確保するための労働条件引き上げ。 	<ul style="list-style-type: none"> 10月より訪日外国人旅行者の個人旅客の受入れ再開。12月の訪日外客は前月比1.5倍の137万人に。
2023年 1月		<ul style="list-style-type: none"> ANA、羽田空港で国際線乗継旅客の手荷物大量積み残し発生。 政府、5月8日から新型コロナの感染症を2類から5類に変更発表。
2月	<ul style="list-style-type: none"> 航空連第42回航空政策セミナー開催。グラハン連「持続可能なグランドハンドリングへ労働条件の抜本的な見直し急務」と題し、人材確保に向けた提言をブレゼン。 	<ul style="list-style-type: none"> 国交省、有識者による「持続的な発展に向けた空港業務のあり方検討会」設置。人材確保に向けた取り組み開始。 ANA、空港運営会社の再編を発表。
3月	23春闘：各労組、賃上げ職場改善を要求	<ul style="list-style-type: none"> 国交省、有識者による検討会を月2回のペースで開催。 23春闘＝グラハン各社で賃上げ回答
4月	<ul style="list-style-type: none"> 航空連、検討会委員と意見交換。 グラハン連「2023年グラハン職場の安全・健康アンケート」実施。 グラハン連、関空調査にてSPJの人員不足の状況を確認。 	<ul style="list-style-type: none"> 有識者検討会、第5回検討会で、これまでに行った各団体・企業からのヒヤリング結果をとりまとめ。

5月	<ul style="list-style-type: none"> ・グラハン連「2023 グラハンセミナー」開催。23 春闘の賃上げ状況、職場の安全、人員問題などグラハンの現状と課題、政策提言案を共有。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝日新聞、読売新聞などが空港業務の人員不足を報道。 ・第6回検討会で中間とりまとめの骨子公表、各委員が意見表明。
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・航空連、航空局と面談。グラハンアンケート結果を説明、局から「中間とりまとめ」の説明を受ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第7回検討会「空港業務の持続的発展に向けたビジョン」（中間とりまとめ）を発表。
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・グラハン連調査で、グラハン職場で不安全事故が多発傾向にあることを確認。 	<ul style="list-style-type: none"> ・政府、「特定技能2号」の航空など9分野を追加。 ・ANA、グラハンに関し新方針発表、空港運営会社再編は一時棚上げ。 ・ANA、羽田空港第2ターミナルの国際線運用を開始
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・航空連、検討会委員とグラハンの現状について意見交換。 ・航空連、空港グラハン協会に面談を申し入れ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グラハンの業界団体として「空港グランドハンドリング協会」が設立される。
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・グラハン連、SPJの人員不足が深刻化との情報入手。 	
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・航空連、グラハンの人員や安全問題で報道機関の取材を受ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第8回検討会、「中間とりまとめ」フォローアップの取り組み状況の確認。人員増の一方で一定の退職者がある。
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・航空連、航空局にグラハンの安全問題等を申し入れ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・NHK、SPJの違法な時間外労働とSPJ労組の残業拒否を報道。 ・国交相、SPJの状況確認と指導を表明。
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・グラハンの安全問題等をプレスリリース。 	<ul style="list-style-type: none"> ・NHK、グラハンの安全問題を報道。
24年 1月	<ul style="list-style-type: none"> ・航空連、報道機関からグラハンの安全問題や人員問題で取材を受ける。 	

(2) 検討会の「中間とりまとめ」とフォローアップ

グランドハンドリングの体制(主要61社の採用・離職の状況)

- 毎月、採用活動を行うことにより、職員数については着実に増加している。
- その一方、多忙等を理由として、一定数の退職者が生じている。



短期目標に対する評価と今後の対応

【個社】

- 「受託料の引上げ」など、外国エアラインとの契約に係るものについては、着実に取組が進められている。また、国際線の再開・新規就航などによって業務量が増大した空港の事業者は、「正確な現状把握」を実施し、「高負荷の抑制」に向けた取組を実施している。

➔ 「受託料の引上げ」などの契約に係る取組は、現在交渉中の事案も存在することから、継続した取組を実施していく。

離職者の抑制に向けて、「正確な現状把握」「高負荷の抑制」に向けた取組を着実に実施していくよう、空港WG等を通じて、その周知を図る。

また、「高負荷の抑制」に向けては、省力化の実現に向けた先進機器の導入など一定の経費が必要になる場合があることから、国としても継続した支援の実現に向けて取り組む。

【業界】

- 「業界団体の設立」がなされ、「カスタマーハラスメント対策の推進」など、これまでに例の無い取組が始められている。

➔ 各社が対応を進める中で明らかになる課題について、業界全体で実効性のある取組が進められるよう、業界団体（空ハン協）と国が連携して取り組む。また、カスタマーハラスメント対策について、実態調査を踏まえた具体的な行動を進めていくよう、引き続き促していく。

2. 人材確保をめぐる現状～後を絶たない退職

(1) JGS、ANAASの入退職者数の推移

	年度	入社数	退職者数
JGS	20～ 22	191名	315名
	23	270名	66名（上期）
	24	347名 （23年度中に200名入社予定）	
ANAAS	20～ 22	610名	1206名
	23	539名（4-1月）	292名（4-12月）
	24	400名	
※グラハン連調べ			

<参考>

- ▶ JAL スカイ：24年度採用数／310名（総合10名、一般／300名）
- ▶ 外国人労働者<特定技能1号＝在留資格5年>採用状況
JGS（24年度85名）、JASCO、SPJ
特定技能1号合格者＝19～23年合計2089名
- ▶ SPJの人員状況（23年11月）
 - ・従業員全体に占める入社1年未満の割合約55%
 - ・HND事業所／約80%

3. 懸念される職場の安全

(1) 羽田空港グラハン2社の現状

JGS			
年度	事故災害 (人身・車両・物損)	イレギュラー (積残し・誤送等)	合計
2023 (4-10)	12件	18件	30件
2022	11件	23件	34件
2021	9件	8件	17件
2020	12件	12件	24件
2019	30件	17件	47件

<参考事象>

23年度(4-10) / 29件(災19件、IRR10件)

22年度 / 27件(災18件、IRR9件)

21年度 / 30件(災17件、IRR13件)

ANAAS							
年度	CATⅢ	CATⅡ	保安	車両施設 損傷	人身	ULD 落下	合計
2023 (4-11)	2件	34件	14件	11件	6件	4件	59件
2022	5件	16件	17件	6件	0件	3件	44件
2021	2件	9件	3件	6件	1件	0件	24件
2020	2件	13件	3件	17件		0件	35件
2019	4件	19件	14件	32件	4件	5件	78件

▶ANA：23年8月、今年度に入り人身事故多いとし、「作業者の安全確保の徹底」との文書発信

▶羽田空港：今年度3件の居眠り事故（合計9名が重軽傷）、うち1件は明らかな過重労働

＜運転者の勤務／06時～15時半／事故発生19時25分ごろ＞

▶過重労働の実態

・SPJ＝労基法違反の時間外労働⇒労組が36協定破棄

・A社（2次委託先／国際線業務）

Bさんの時間外労働

23年1月～8月の間、毎月45時間超過

最大約90時間／月

グランドハンドリング部門各位

2023年8月29日

オペレーション社

作業者の安全確保の徹底について

標題の件、今年度に入り人身事故/傷害が多く発生しており、約4ヵ月で3件の人身事故※1が発生しています。係員の受傷については、AT-23-009「係員の人身事故について」でも注意喚起を行っていますが、7月に人身傷害※2が7件発生しており、その後も後を絶ちません。これ以上の人身事故・人身傷害を発生させないため、各空港に於かれましては、委託先も含め以下の対応をお願いします。

1. 作業者の遵守事項並びに、管理・監督者層からの注意喚起
作業に従事する方に於かれましては、SQIや他空港事例を自分事と捉え、自身の作業を見直すようお願いします。
管理監督者の皆様においては、始業アリーフング等で、以下の項目について注意喚起をお願いします。
①『自分の安全は自分自身で守る、他者にけがをさせない』
 - 保護具は正しく着用すること。
 - 常に危険予知（「～だろう」ではなく「～かもしれない」）を働かせ、なによりも自身・他の作業者の安全を最優先し作業すること。
 - 作業開始前に、怪我に繋がりが得る箇所(リスク)を想定し、作業中にも注意を払う。
(ランプ内受傷発生MAP参照)
②『急ぐ時ほどゆっくり確実に』
 - 規程・手順に従った基本作業の徹底。
 - 指差呼称の徹底。
③『一声掛けて相互確認』
 - 他の作業者の動向に注意して、相互確認した上で作業すること。
 - 作業者間でのアサーションの徹底。
2. 管理・監督者層の職場巡視
 - ・「1.」に記載した項目が確実に履行されているか、管理・監督者層の職場巡視にて確認
 - ・併せて職場特性を踏まえ、新入社員、業務に不慣れな方に対し、より一層の注視・声掛けの実施

※1 人身事故：死亡、重体(生命に関わる危険な状態)、後遺障害を伴う事象、または当該事象により48時間以上の入院が必要となった事象
※2 人身傷害：骨折(ヒビも含む)・縫合を伴う裂傷・重度の火傷(Ⅲ度熱傷)を負った場合、または48時間未満の入院が必要となった場合

4. グラハンドハンドリングの持続的な発展に向け労働条件引き上げを

(1) 20年前に比べ切り下がった賃金

2023年の賃金水準

年齢	JGS	ANAAS	OSAAP
20	23万円	20.3万円	19.4万円
30	28.2万円	24.3万円	23.2万円
40	33.4万円	33万円	27万円
50	39.2万円	36.7万円	30.6万円
59	42.7万円	37.5万円	36.7万円

※支給総額＝基本給＋世帯調整手当＋シフト手当＋資格手当。59歳の基本給は上限額とした。（夜勤を含まないソフト勤務）

2005年当時の賃金水準

年齢	AGS	TAS	GAS	OAS
20	25万円	24.9万円	24.1万円	23.5万円
30	34.2万円	33.9万円	33.1万円	33.8万円
40	42.5万円	42.8万円	41.8万円	41.1万円
50	48.4万円	49.5万円	49.4万円	46.9万円
59	48.8万円	50.6万円	50.7万円	49.9万円

※金額は、当時の各社の基本給＋住宅手当＋家族手当＋シフト手当など一定の条件を基に試算。（夜勤含まないソフト勤務）

2005年対比＝JGS／50歳／20%減 OSAAP／50歳／35%減

<20年前に比べ切り下がった主な要因>

- ▶ JGSでは、2006年のJAL・JAS統合に伴うグラハン会社の再編、2010年のJAL経営破綻に伴う賃金制度見直し。
- ▶ ANAASでは、2008年、2014年の会社統合（社名変更）に伴う賃金制度の見直し。

（2）人件費削減からの転換～求められる労働条件引き上げ

▶ 国交省の取り組み

- ・ 2020年1月＝アクションプランで賃金引き上げ、職場環境等の改善を提言
- ・ 2023年2月＝検討会の提言と取り組み<賃金引き上げ、働き方見直し、原資となる受託料の引き上げ等>

▶ 政府目標＝2030年訪日外国人旅行者6000万人

▶ 空港の受け入れ体制強化＝重要性増すグランドハンドリング

▶ しかし人口減、さらには生産年齢人口（15～64歳）減

▶ グラハン各社は採用競争力強化を迫られる

▶ しかし、コロナでグラハンは不安定な業種となり、魅力を失っている

▶ 魅力あるグランドハンドリングへの転換急務

▶ そのためには、労働条件を抜本的に見直すこと。

それが安定的な人材確保につながる

▶ 24春闘がんばろう！！



<< ご清聴ありがとうございました >>